

発行所 〒160-0017  
 東京都新宿区左門町11番地6の101  
 一般社団法人 大学女性協会  
 電話 03-3358-2882  
 FAX 03-3358-2889  
 http://www.jauw.org  
 E-mail : jauw@jauw.org  
 発行人 阿部 幸子  
 編集責任者 端本 和子

# J A U W

## おもな記事

- 1面 2012年度シンポジウム
- 2面 事業紹介、IFUWイスタンブール総会のお知らせ、ナヤニさん講演会
- 3面 支部だより、支部との連携を深めて、IFUW 戦略目標
- 4面 国際奨学生、新春のつどい、自然科学講演会、事業委員会の発足、理事会から

## 基調講演

教育と研究の場としての大学は、これからの男女共同参画を担う次世代の教育をしなければならぬ。研究に関しては、法学、教育、工学等々のあらゆる研究分野の偏りをなくす必要がある。その意味で男女共同参画について、大学の果たす役割は大きい。

学校教育の場では、既存のジェンダーを変革する働きがある一方で、それを再生産する働きもあることを意識しなければならない。子どもをジェンダーの枠にはめない、それは決して男女を画一化するのではなく、一人ひとりの個性と多様性を尊重した教育をすることである。また教科や教育内容における男女平等だけでなく、学校や教師が意図せず児童・生徒に伝達している知識、文化、規範など、「隠れたカリキュラム」に気づき、教科外を含むあらゆる場面での新しい男女平等教育が必要である。



村松泰子氏は「教育が変われば社会が変わる」「既存のジェンダーを変革する働き」の大切さ、しかしそれは「むしろ既存のジェンダーを再生産する働きもあったのではないかと提示、明解に分析、説明された。学内の改革に真摯に取り組み努力を惜しまれないご様子は、真の教育者としての姿勢を感じさせられた。

### 男女共同参画社会に資する学校教育・大学とは

東京学芸大学学長 村松 泰子氏

### 女性の政治活動、災害と男女共同参画

前千葉県知事 堂本 暁子氏



東日本大震災の後、被災地の視察や調査、「男女共同参画と災害・復興とネットワーク」など、災害問題に取り組み、そこから得られた多くの意見をまとめて、多方面に向けて要望をする活動を行っている。

視察では、さまざまな過酷な状況を目の当たりにした。女性の視点が全く見られない避難所が多く、また女性は常に男性の意思決定に従って動かされるという実態があった。さらに高齢者、妊産婦、障害者などの災害時要援護者への支援の不足など、多くの課題が浮き彫りになった。

近年世界的に災害が増えている中で、防災に関する国際的な潮流としては、堤防や耐震といった物理的な予防だけでなく、ジェンダーや障害の有無、年齢、階層などにおいて、差別のない、災害に強い社会を作っておくべき、という災害リスク削減(DRR)の考え方が強調されてきている。社会の構成員としての女性は、災害への備えを促し、復興のためのコミュニティ再建の役割を担う柱である。その意味で、防災・復興の過程の、すべての意思決定の場に女性が主体的に参画していくことが重要である。

## 2012年度シンポジウム 「男女共同参画社会の形成と教育」

2012年10月14日(日)  
 於…日本女子大新泉山館(国際交流会館)

主催…一般社団法人 大学女性協会  
 後援…内閣府男女共同参画局・文部科学省  
 日本女子大学

初秋の気配の漂う日、シンポジウムが開かれた。会長挨拶、来賓祝辞の後、基調講演1、2、シンポジウム1、2が行われ138名が参加。学生の参加者も多く熱気あふれる1日となった。

副会長  
 企画委員長  
 高田 武子

堂本暁子氏は、常にジャーナリストとしての視点、国・地方行政の牽引者として精力的なリーダーシップ、そして、生物多様性・災害などの国際的な活躍の上での豊富な経験から、災害時には、女性に対する潜在化している平等意識欠如が顕著に現れるが、リジェンス(強力なコミュニケーション作り、回復力)を担うのは女性であり、地域の災害復興を担っている女性たちの例を示され、政策決定の場への女性の視点の必要を強調された。お二人のパワフルで迫力のある講演に圧倒されつつ、多くの指針をいただく内容であった。

午後は、これらの基調講演を受けて、シンポジウム1「男女共同参画社会と教育」では、田中正子教育委員会委員の司会で、社会福祉委員会委員長・縄田真紀子氏、教育委員会委員長・長田満江氏、福岡支部会員・相良かおる氏、神奈川支部会員・石塚浩美氏、の4人のパネリストから研究報告があった。

シンポジウム2「女性の政治参加」では、城倉純子国際ネットワーク担当理事の司会で、国内NGO委員会委員長・五十嵐康子氏、(財)広島県女性会議理事長・吉村幸子氏、仙台支部長・谷地森涼子氏から研究報告があり、いずれも会場から多くの意見交換の後、実り多いシンポジウムを閉会した。パネリストの皆さんの貴重な発表や多くの会員の皆さんにご協力をいただき、無事にまた成功裡に終えることができたことを心から感謝申し上げる。

\*IFUWの国際コロシアム・プロジェクト「Breaking Barriers to Female Leadership in Higher Education」に参加します。



会場風景(熱心に聴き入る会員)



シンポジウム1(発表する石塚さん)



シンポジウム2(質問に答える谷地森さん)



会長挨拶

### シンポジウム1「男女共同参画社会と教育」

- 司会・コメンテーター  
 教育委員会委員 田中 正子
- 縄田真紀子 社会福祉委員会委員長  
 「福祉にかかわる教育」— 高等学校家庭科の中で
- 長田 満江 教育委員会委員長  
 「家庭科教育の役割 — 男女平等社会にむけて —」
- 相良かおる 福岡支部会員  
 「文献調査および教科書比較から考える家庭科教育」
- 石塚 浩美 神奈川支部会員  
 「女子生徒に「ワーク」のお値段が分かる家庭科教育を！」

### シンポジウム2「女性の政治参加」

- 司会・コメンテーター  
 国際ネットワーク担当理事 城倉 純子
- 五十嵐康子 国内NGO 委員会委員長  
 「全国地方議会女性議員へのアンケート調査から見てくるもの」
- 吉村 幸子 (財)広島県女性会議理事長・広島支部長  
 「政治参加の多様性に向けて — 県内女性議員への調査結果(広島県の男女共同参画をすすめる会実施)から見てくるもの —」
- 谷地森涼子 仙台支部長  
 「男女共同参画の視点を政治に」

2012年度シンポジウム「男女共同参画社会の形成と教育」の詳細は後日発送の報告書を参照ください。

## 事業紹介

# 国際支援事業

担当理事 西村 寿美子

大学女性協会の一般社団法人移行後に公益目的支出計画によって行われる事業は、4つの継続事業で構成され、いずれも継続性と公益性が求められています。

国際支援事業は、その中の継続事業3に所属し、定款第5条(3)「国外の女性研究者への奨学金給付及び国際協力のための国内の女性人材育成等」に基づいて活動しています。

国際奨学委員会は、日本で研究を必要とする女性研究者を国外から招聘し、帰国後、自分の国のために貢献できるように、奨学金を授与しています。

また、国際的視野に立って発言し活動できる能力と行動力が必要な現代社会において、国際感覚と知識を身に付け、国際会議に参加して、社会に貢献できる次世代の女性の育成の一助となるように、人材育成委員会は設立されました。

文化交流委員会は、留学生との交流によって、外国文化を理解し、また、日本文化を正しく理解してもらう相互理解のうえで、国際親善に努めています。

このように、国際支援事業は、国内外の女性に対して、奨学金・知識・文化等多方面からの支援をすることによって、国際協力と国際交流に貢献しています。

### 文化交流委員会

委員長 堀 美知子

JAUW教育委員会による「教科書に見る日本の平和教育」調査発表後1999年に設立された「留学生と日本文化を共に学ぶ会」が原点です。原則として女子留学生に日本の伝統文化を紹介し体験する機会を提供し、日本を再確認・理解してほしいと願ってのことでした。

10年余にわたり主として東南アジア出身の女子留学生計700余名が参加し、歌舞伎鑑賞・相撲部屋見学・茶道・俳句・着物着付けなどの会員も共に学ぶ活動を続けてきました。まさに若き世代を中心にした民間外交の一端を担ってきたと自負できるような、留学生も会員も活発な活動でした。時代の移り変わりと共に留学生支援活動が大学や地域でも活発となり、JAUWの会員参加も減少してきたため、昨年度から「文化交流委員会」として再出発しました。

留学生の学業時期を考慮しますと、大きな活動は年に3回(2012年度からの地方支部主催の活動1回を含む)しかできません。今後、小規模な活動も視野に入れて若い世代との親善の機会を持つ方向も模索中です。

参加留学生のアンケートにはいつも「有難うございます」があり、たどたどしい日本語力であっても直に接することで身をもって理解できたと言います。異文化交流と共に留学生間の交流も兼ねられるような時代になりました。留学生が今後の人生においても良い日本観を持ち続けてくれるようお願いしながら活動しています。

### 人材育成委員会

委員長 青木 怜子

人材育成委員会は、定款で謳う「国際協力のための国内の女性人材育成」の理念に基づき、2011年度、新たに発足いたしました。その目的は、国際会議への参加を通じ、世界に向けて関心を抱き、いずれは世界に発信できる女性の育成をめざしています。

私たちJAUWがもつ大きな特色は、国際大学女性連盟(IFUW)やアジア大学女性連盟(UWA)の一員であることに加え、「国連婦人の地位委員会」(CSW)にNGOとしての諮問的地位を持つ「国際婦人年連絡会」の加盟団体であることにあります。この立場を生かし、当委員会では、これらの国際会議に意欲的に参加する女性を支援し、育成していきます。

支援の内容は、渡航者に対し支援金の給付を行うほか、随時、研修会を開き、国際会議に向けての事前研修を行います。また、この研修会は、国際会議に参加する人ばかりではなく、社会に向け、少しでも世界を視野に入れた国際感覚を培う機会として一般公開し、それにより、国際的に活動するNGOとしての特性をより確かなものとするを願っています。

国際会議に参加する支援対象者は、会員に限定せず、大学生以上の、できれば次世代を担う若い女性に広く応募を呼びかけています。募集は、HP等を通じて公募しています。ぜひ皆様の身近な方に、応募をお勧めくださるようお願いいたします。

### 国際奨学委員会

委員長 廣田 里子

JAUWが初めて海外から女性研究者を招聘したのは40年余り前の1970年です。それ以来、この制度をめぐって不断の努力が重ねられてきました。中でも、87年に委員会を組織して大々的に募金活動を展開したことは特筆に値します。このときの寄付金によって基金が設定されて現在の国際奨学制度が確立されたのです。いまや、欧米や多くの途上国から受け入れた奨学生の総数は70名近くに達しています。

以前はIFUWとその傘下の各国連盟・協会会員に限っていた応募資格を、事業の公益化に伴い3年前からIFUW関係者優先を基本方針としつつ非会員にも解放し、その中からも選抜される事例ができました。国外に居住する外国籍の学生・研究者のうち、主として大学院学生と若手の博士研究員であれば専門を問わず誰でも応募できます。奨学生は、3カ月以上6カ月までの範囲で本人が希望する期間、日本の受入機関に滞在して、調査研究に従事することができます。ただし、日本に滞在しないと遂行できない研究であることが必須条件です。

奨学生の傾向について、昨年はエジプト、香港、ポーランド、今年はウズベキスタンとモンゴルで、いずれも新興国・途上国出身です。来年3月16日には、アルカディア市ヶ谷で恒例の研究報告と併せて、各自の国についても話を聞く予定です。ご期待ください。

### 第31回 IFUW イスタンブール総会のご案内

会期：2013年8月16日～21日  
総会テーマ：「持続可能な未来のための女性の役割：教育、都市化、暴力と人権」

ID(学際)セミナーおよびワークショップのテーマは、6つあります。

1. 教育におけるジェンダー不平等：持続可能な社会への脅威となるか？
2. みんなに質の良い高等教育を提供することは経済的に持続可能か？
3. 持続可能性に対する脅威となる女性への暴力の文化
4. 人口、持続可能性、そしてリプロダクティブ(生殖に関する)権利
5. 女性のリーダーシップなしで持続可能な未来はあるのか？
6. 女性の健康を維持すること：良質の健康管理を受ける権利

現在募集されているワークショップの応募期限は2013年2月28日です。各国から最大4件の応募が認められますが、いくつかの支部合同のワークショップが優先されます。詳しくは、JAUW ホームページなどを通してご案内いたします。

トルコは親日的な国で、観光名所も多いたるところです。一般参加についても詳細がわかり次第ご案内いたします。是非日本からもたくさんの方が参加されますよう、お誘い申し上げます。

### ナヤニ・メロゴダ教授 [スリランカ大学女性連盟元会長] 講演 「南アジアにおける平和構築と女性の役割—アフガン女性を心に留めて」

(2012・10・27 津田ホール 人材育成委員会・国際委員会共催)

この講演はUWA参加者への研修会の一環であり、最初に青木怜子人材育成委員長がUWAの歴史を説明し、次いで、メロゴダ教授の講演に入りました。

メロゴダ教授は南アジアの勇敢な女性たちの写真を見せ、アフガニスタン女性が置かれている状況を説明しました。物言う女性が身内により命の危機に晒され、女性が学ぶことを敵視するタリバンを標的ともなる実態を語り、その上で、識字率を上げ平和教育を根付かせ、無知を減らすことで女性の命を守り、地位を高められると訴えました。平均寿命がわずか50歳にも満たない人生で、女性の力を信じて平和社会へ向けて歩むアフガンの女性たちを、私たちがいかに支援していくか、重い問いかけが残されました。

最後に穂田信子 CIR が、UWA での体験を述べ、11月のUWAバンコク総会では、福島原発事故による避難の実態に触れ、かけがえのない一人一人の暮らしを守ることの大切さを話す決意だと語りました。

ナヤニさんが蒔いた種がいつかアジアを繋ぐ力になれば、研修会の意義はさらに大きくなります。外部からの参加も含め、31人の参加者が講演から得た認識と感動を周囲に伝え、次なる行動に繋げていくことが問われています。



# 支部だより

# 支部との連携を深めて

会長 阿部幸子

名実ともに支部と本部が一体となって活動できるように組織を改め、その成果も見え始めています。その事業の一つに、今年度から実施することになった講師派遣事業があります。支部にとって例会や講演会などの開催には、講師の人選や資金面などで多くの困難があり、本部から講師を派遣してほしいとの声がありましたが、昨年度の新潟支部からの強い要望を機に、理事会（青木会長）で審議し、この事業が実現しました。すでに、2回の講師派遣が行われています。

9月29日には、新潟支部の例会（公開講演会）に牧島悠美子副会長を派遣し、

「クオータ制を考える」と題して行われた講演は支部会員・一般参加者にとって時宜を得た学習会となったこと、本部を身近に感ずる機会ともなったとの報告を受けています。10月20日には、京都支部の例会を、京都・大阪・神戸・奈良・福井の5支部で共催し、青木怜子前会長による講演「伝えたいメッセージ『私の中のアメリカ』」出版に際して」が行われましたが、講演後の5支部の交流会で出された要望等も伝えられ、本部としては検討課題として受け止めています。

こうした事業を通して、支部との連携が一層深められることを期待しています。

## 福井支部は十二歳

福井支部長 山田由美

永らく休眠状態だった福井支部は、金沢支部のご協力を得て、タイの子どもたちに奨学金を贈るという事業を柱に、2001年に活動を再開し、少数ながらもそれぞれの会員が特技を生かして知恵を出し合い、地道に活動を積み重ねてきました。

会員増につなげたいとの思いから、公開講座を開催。裁判員制度や法律について学んだり、インドやマレーシアについて現地の方にお話しいただきました。講座の後に新たに会員が増えたのは嬉しい限りでした。

また、地域に根差した活動をするためには、まず郷土を良く知ることが必要と考え、伝統行事を訪ねる旅も毎年開催しています。今年2月の親睦旅行では、郷土の新しい魅力を知ることができました。その親睦旅行では、全国各地の会員の方々と交流を楽しみましたが、今年度は、京都・大阪など関西地区5支部の一員として、青木怜子前会長をお招きしての合同例会にも参加しました。

## 大阪支部の活動と近隣4支部との関わり

大阪支部長 片岡みか

大阪支部では、①HPの定期更新、②他支部との協力、③シンポジウムテーマに沿った講演会を行いました。

①HPの更新  
定例会が終わる度に、次回例会の案内と、本年度の活動報告をHPにアップしています。

②他支部との協力  
京都・大阪・神戸・奈良・福井の5支部共催で、青木怜子前JAUW会長に京都にお越しいただき、「伝えたいメッセージ」『私の中のアメリカ』(Jugon.com)出版に際して」と題して、ご講演いただき、その後、懇親会にもご参加いただきました。

大変内容の濃いお話をしていただきました。アメリカの歴史と青木先生のアメリカへの熱い思いがひしひしと伝わってきました。

③講演会  
防衛大学校（男女比9：1）40期生（女子の1期生）で、現在、航空自衛隊幹部候補生学校勤務の津田圭子3等空佐に「自衛隊における男女共同参画の



青木怜子前会長をお迎えして

歩み」と題してご講演いただきました。女子1期生として、後に続く女子学生のためのレールを敷いてくださった功績の大きさとそのための大変な苦労があったことを改めて知り、自衛隊の中でも男女共同参画が進んでいることを知りました。

近隣4支部にも呼びかけ、京都支部・神戸支部からもご参加いただきました。

これからも、近隣4支部との絆を深めながら大阪支部独自の活動も続けていきたいと思っています。



2011年7月 敦賀市においてシンポジウムを開催

支部としては初めてのことでした。今年度はそれを受けて出前講座を開催し、次世代を担う高校生に、認知症や介護について考えてもらう場を提供しましたところ、予想以上の反響がありました。若い人たちの柔軟な心に感動しました。アンケート調査という新しい分野にも参加し、違った視点での活動にも興味を持つことができました。

12年目を迎えて、やっとな、よちよち歩から小学校卒業へと成長してきた福井支部ですが、会員それぞれが個性や能力を発揮して、みんなで進んで来たお陰かなと、支部長はニンマリしています。そろそろ卒業させてもらってもいいかなあ……

## 群馬支部の近況

群馬支部長 植原映子

高齢化の影響をまともに受けてか、群馬支部は会員数が7名となってしまいました。新入会員も入会はしてはくたさるものの、長くお引き留めできないのが悩みの種です。「今さら、大学卒の女性団体なんて」と、お誘いするときに、よく言われますけれど、私自身を振り返っても、成蹊大時代の倉石五郎先生による「ファウスト」のドイツ語でのアーバント・クラッセ、大学院時代「君のためにやるんだよ」と小川和指導教授の言ってくれた「エリア随筆」講読、それらがあってこそ、現在の私があります。もし、大学教育を受けなかったら、憲法9条を変えるなどという加藤周さんの呼びかけに込められる視野の広さは得られなかったでしょうし、自分に関係なければ福島の子どもの健康に思いを致す心の深さもなかったかもしれないと思いき、大学での学びと遊びをつづく有難いと痛感します。そして、女性であっても大学教育を受けさせてもらった恩を社会に還元しなければ、と大学女

## 神奈川支部からこんにちは

神奈川支部長 市川知恵子

神奈川支部の会員は28名です。この人数の中から元会長を2名も輩出しています。田中正子さん、房野桂さんです。そして現在は業務執行理事田辺光子さん、調査・研究担当理事田辺光子さん、調査・研究担当理事田辺光子さん、文化交流委員会委員長に堀美知子さん、IFUWのCIIRに穂田信子さんが活躍しています。10月のシンポジウムにはパネリストの一人として石塚浩美さんがお話をされました。30名に満たない支部からこのように本部の業務を「できる人」が常にいるのは何と素晴らしいことではないでしょうか。

支部会員の中にはご自身の本業の仕事に充実させる時期の方、介護や子育てに忙しい方が多いですが、それにもかかわらず貴重な時間をやりくりして社会貢献事業に参加しています。主な事業は講演会です。社会が求めているもの、一般の人が今聞きたい知りたい知識を得て正しい判断ができる



総会懇親会にて

るようになるための一歩先取りした内容です。9月8日の丸山若重会員による講演「放射線の健康影響を考える」は参加者から「孫がいて心配だったけれど今日のお話を聞いて安心して生活できます」と感謝されました。9月22日の房野桂元会長による講演「国連と私たち」は「このような程度の高品質講演をする大学女性協会に入会できてとても嬉しいです」と感想が寄せられました。

支部の例会では出席者全員が発言します。会議に出て黙って帰る人はいません。1+1が3にも5にもなります。これが神奈川支部の強みです。



伊香保温泉の源泉を辿る道にて

性協会の意義を確信する次第です。ですから、東京支部会員である山下泰子さん（お母さまが群馬師範出身）のネパールの女子教育を支援するつもりです。

また今年度から短大卒の方も、正式に会員に入会出来るようになり、経済的な理由から大学に進学しなかった女性も共に歩みを同じくできることを、たいへん嬉しく思っています。高校・短大を自分の力で卒業し、保育園を二つと社会福祉施設を創設し、残念な結果とはなりませんが、前橋市長選挙に初の女性候補として立候補なさった亀田たか子さんを、新入会員としてお迎えできたことに感謝でございます。

## 女性の力を活かせる世界を目指すIFUW戦略目標

IFUWは、全ての女兒と女性が平和な安定した環境の中で良質の教育への平等の権利と機会を確保し、人権が尊重され、差別が撤廃され、公私にわたる生活にその潜在能力を活用できる世界を理想に描き、2012年～15年の戦略目標とその目的を定めた。

### 目標1 女兒と女性が良質の教育を受ける権利確保

- 全ての女兒と女性が最高レベルの教育を受ける平等の権利と機会を確保する
- 人権協約等の国際協定の履行を提唱し、女兒と女性のための良質の教育を推進する
- 女兒と女性が良質な教育を受ける権利を守るための法律制定を提唱する
- 教育に関する国際条約等の、国際的な合意文書に関わる政府の行動を監視する
- 社会から疎外された女兒と女性が教育を受けられるための運動を行う
- 富の格差を減らし、教育を受けた女性が力をつけて、キャリアアップできるよう促す

### 目標2 公共分野での女性の存在感を高める

- 女兒と女性が世界の政策決定の場でその声を聞き届けさせ、若い女性が明日のリーダーになること
- 女兒と女性が他者と協働し、あらゆるレベルの意志決定への参画を増やす
- 教育を受けた女性のロールモデルを増やし、女性の平等権を阻害する思考を排除する
- IFUWとNFA（各国大学女性連盟・協会）の奨学金事業の発展・強化を図る

### 目標3 女兒と女性の人権確保

女兒と女性の普遍的な人権確保を目指す

- ・女兒と女性の人権強化を促す、世界、国家、地方レベルの提案を支援する
- ・あらゆるレベルのカリキュラムへの人権教育組み入れを促す

### 目標4 アイデンティティの強化と会員の動員

- より高度な高等教育推進を提唱する女性組織としてのアイデンティティを強化し、新会員を増やす
- ・会員を力強いIFUWのアイデンティティの発展に関与させる
- ・IFUWの存在感を高め、その魅力の向上を図る
- ・新会員の入会と新たなNFAの設立を促す

### 目標5 効率的な管理運営、組織構造を目指す

- 理事会、委員会、スタッフ、会員が協働して、強力な構造を築き、戦略を履行する
- ・統治機能を強化し、スタッフチームを編成する
- ・総会への代表参加を促す環境を醸成する
- ・効率的な内部システム・プロセス構築の推進
- ・内外との効率的なコミュニケーション・システムを確立する

### 目標6 持続可能な財政と資金調達

- 財政を支える多様な資金源を確保し、戦略計画と開発を支援する資金を調達する
- ・戦略計画を支援し実行するための資金調達戦略を策定し、資金源の多様化を図る
- ・透明性と良好な慣行を確保するために、財政管理システムのチェックを適宜行う

《2012年度国際奨学生報告》

エレナ・ギナチュリナさん (ウズベキスタン出身)
ナランハジット・ミヤダグスレンさん (モンゴル出身)

国際奨学委員長 廣田 里子

10月5日、今年の国際奨学生のエレナ・ギナチュリナさんが成田に到着しました。上級研究員としてウズベキスタン学術院に所属するエレナはこれまで10年余り水質管理の仕事に携わってきました。滞在先の工学院大学八王子キャンパスでは、ミジンコを使った水質の毒性評価など、環境保全に役立つ分析法の研究に取り組みます。今回の来日の目的を尋ねたところ「工学院では、水環境を守るために、地域の住民と一体になって水質調査を行っています。大ミジンコが物質を腸内に取り込む速度を測定する方法を使って水環境の毒性を評価する手法の研究もその一環です。また、水質変化の生態系への影響を判断す

るために地域ぐるみでその手法を実用化することに意欲的に取り組んでいます。今回の滞在で、わたしは出来るだけの成果を故国に持ち帰り、世の中のさまざまな化学物質や環境汚染成分を分析する方法の開発や改良にこれまでに以上に力を発揮できるようにしたいのです」という返事が返ってきました。ウズベキスタンは、リヒテンシュタインと並んで世界に二つしかない、いわゆる二重内陸国、つまり、この国では国境を最低2回越えないと海に達することができないのだそうです。国土の80パーセントは砂漠に覆われており、残りの国土も乾燥してかなり荒れているようです。水の問題は国を上げて解決するべき大変重要な問題と聞いています。半年の滞在期間中にそれなりの成果が上がるとともに祈りましょう。

もう一人の奨学生のナランハジット・ミヤダグスレン(愛称ナラ)さんは12月初めにモンゴルから到着する予定です。モンゴル保健科学大学の講師で日本では国立感染症研究所寄生物動物部(東京)に籍を置き、エキノコックスという寄生虫によって起きる感染症の研究に従事します。エキノコックスはサナダムシの仲間です。中央アジア、シベリヤをはじめ世界各地に分布しています。日本でも北海道で流行が見られる感染症です。症状が出るまでに10数年かかるので、診断が遅れると非常に重い肝機能障害を引き起こす難治性の人畜共通感染症として認識されているそうです。彼女の日本での研究は、エキノコックスだけでなく近縁のサナダムシによる感染症も対象となっていて、医師、獣医師だけでなく広く公衆衛生教育の現場でも役立つ成果を得ることを目指すことになっています。帰国の暁には、日本での成果を基にした冊子を出版して、これをモンゴル厚生省や食糧農業省との協同で、現場の病院や診療所に配布して活用できるように取りはからい、同時に、国際専門誌にも論文を掲載する予定とも聞いています。

3月の報告会では、エレナさんとナラさん、お二人の成果を聞き、またウズベキスタンとモンゴルについても話してもらおう予定です。期待してください。



ナランハジット・ミヤダグスレンさん

事業委員会の発足

事業委員会委員長 加藤 恭子

大学女性協会は本年の4月1日に一般社団法人へ移行し、それにもない新たに事業委員会が発足しました。今までは活動に必要な経費を旧財務委員会が種々努力し補ってききましたが、一般社団法人になると大学女性協会の事業が会計上、公益目的事業と公益性のない事業に分けられます。今まで蓄えられてきた資産は公益目的の財産となり公益目的事業にのみ使用されることになりました。その事業とは今までの継続事業である(一)セミナー関連(二)奨学事業(三)国際奨学を含む人材育成事業(四)IFUW並びに女性団体との協働活動などいわゆる国際ネットワークの4事業です。しかしこれに含まれていない広報活動や会員活動などは公益性がないため、従来からの資産で運営することができず、その年度の収入つまり会員の会費でまかなうこととなります。が、会員の減少のため会費収入が不足で、それを補うため事業委員会が資金をつくるという大きな使命を持たされました。

事業委員会の委員は現在29名、活動はA(バザー、見学会、バス旅行、食事会など)B(歌舞伎、狂言、能、オペラなどの観劇)C(コンサート)D(講座、公演会)E(新春のつどい、支部交流の親睦旅行等)の5グループに分かれ、委員一同それぞれの仕事を企画実行し頑張っています。

しかし発足して半年、活動の中で私たちがさびしく思うことは、せっかく企画した観劇や見学会などの参加者が非常に少なく、ほとんど委員が歌舞伎に文楽に狂言にと参加してかろうじて定員をうめている状態です。

参加していただくとチケット代の平均約15%が会の収入となります。企画がマンネリ化していることや、会員が高齢になり外出しにくくなってきたことが、原因はあると思いますが、たまには菊五郎はいかが幸四郎はいかががでしようか。またご希望の企画がありましたらご連絡ください。なお私たちと共にこの委員会で活躍してくださる方を求めています。

どうぞ大学女性協会の活動のため、ご理解ご協力を心からお願ひ申し上げます。



バザー会場風景

JAUW 新春のつどい

今年度も、恒例の「JAUW新春のつどい」を以下のように開催いたします。国内奨学金贈呈式は、大学女性協会の大切な公益事業の一つです。未来への希望と意欲にあふれる奨学生のスピーチは、毎年私たちに大きな感動を与えてくれています。懇親会では二胡と楊琴と歌のアンサンブルで美しい中国音楽の調べをお届けいたします。会員の皆様、また会員外の方々もどうぞ誘い合わせの上、多数のご参加をお待ち申し上げます。

日時 2013年1月12日(土) 11:00~14:30
場所 新宿 京王プラザホテル本館4F 「扇」
プログラム 1部 2012年度 国内奨学金贈呈式
2部 懇親会
「中国音楽の調べ」 アンサンブル「ジャズミン」
二胡 富澤 伸江
楊琴(ヤンチン) 嵐 道子・中山 恵
歌 齊藤 ちとせ
会食・懇談

会費 10,000円
申込先 (一社)大学女性協会 本部事務所
Tel: 03-3358-2882 Fax: 03-3358-2889
E-mail: jauw@jauw.org
申込締切日 2012年12月20日 (12月28日までにお振込みください)
振込先 三菱東京UFJ銀行四谷支店
普通預金・口座番号 1077777
別口 一般社団法人 大学女性協会 理事 阿部 幸子
なおキャンセルは3日前までとさせていただきます。

今回も事業委員会のバザーを致します。どうぞお楽しみに。皆様からの寄贈品を事務所に随時受け付けております。

(一社)大学女性協会

第11回 自然科学講演会のお知らせ
「メタボリックシンドロームと高血圧」

講師 藤田恵会員
東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科 特任助教
本年度第14回守田科学研究奨励賞受賞
日時 12月15日(土) 14:00~16:00
場所 お茶の水女子大学 理学部3号館701大講義室
申し込み 12月12日(水)までに JAUW 事務所へ

医師としてメタボリックシンドロームの診療に携わる立場から、医療と研究のかかわりや、研究の重要性、面白さについてわかりやすくお話いただけます。皆様のご出席をお待ちしております。

科学研究奨励委員会(東京支部・お茶の水女子大学理学部共催)

《理事会から》

- 国連 NGO 国内婦人委員会の推薦により、第67回国連総会政府代表顧問として鷲見八重子理事が訪米。派遣期間は10/7~11/10。帰国後12月6日(木)13時から婦選会館において報告会が持たれる予定。
●委員会名簿の追加
事業委員会...芦澤紗知子、田辺範子 国際委員会...賀集イレーネ
●丸大ハムのカタログを同封いたしました。ご協力をお願いいたします。
●JAUW正式ロゴマークを使ったレターセットが出来上がりました。会員の皆様に頒布いたします。ご期待ください。

丸大食品 心に残る贈り物

丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます。

お歳暮・お中元の時期のほか、記念品・新築祝・開店祝 御礼・内祝・快気祝等、いつでもご利用になれます。



丸大食品株式会社

首都圏特販営業課 担当: 奥 功

〒135-0051 東京都江東区枝川2-23-2
TEL 03(3647)3270 FAX 03(3647)3274

